



俚
謠
解



特別
又 6
9339
8





里謠解

王の来りて夜はよいからと知れり又たしこむが空むる
潮来は常陸行方即南端の可えと枝之又枚来といひし也
東國の方言潮をいたといふ處出に潮言あるより西山公
かゝるめりしとて其出づるに潮言あるより西山公
題ありとれりしとて其出づるに潮言あるより西山公
此本文情人の来りて夜はよいからと知れり又たしこむが空むる
とてつは萬代和歌集藤原恒子
いづれぬにまぢや明きん下ひものときぬさよひは花にさす
此歌より前の潮来は出たる其元古く支那以牙の
俗信にして唐權徳與玉台體詩云昨夜裙帶解



共古解



すゝ空堂のやまは藤娘、座敷の坊の精鼻禪を火
 りとてびらり、（？）杖をばりあげて荒氣
 の巻に發氣して鉦種木、新築、鉦を
 ぬきんの行列、鐘聲、慶生の根五郎、
 大津、節、えれが原、諸い、（？）種、ありて、冬、考、なる
 の多し、大津、東海道、の大津、ま、佛、画、を、あ、さ、り、
 考、り、存、し、始、ま、り、大津、画、又、迄、分、給、も、い、し、元、祿、三
 年の、枝、本、東、海、道、繪、因、り、大津、大、谷、邊、佛、繪、い、ら、く
 あ、り、と、懸、し、あ、り、又、巻、末、の、り、は、大津、繪、の、筆、の、は、い、
 は、河、佛、と、あ、り、當、の、佛、画、も、い、ま、う、画、の、考、り、存、し、の、
 が、後、ち、（？）本文の、と、画、題、と、い、て、迄、年、迄、の、画、の、考、り、
 いて、本文、大津、画、を、な、る、と、見、ら、が、説、明、す、と、及、ば、ぬ、と、考、り、

大津、節、の、考、り、





鳥を手にする女



雷太鼓
碇



座頭の坊のいふこと
文
さし
さし
さし



茶屋の女いふこと
娘



新瓶
押入



美之風の鬼の舞
奉加

鐘
辨
慶



奴
の
形
式



矢の根をいふ



笠の繪も現に大津とて書けりものなるが古
 らのとは雪隠の草といふれど本は説明の爲に或
 げいほり供り刺り画りてすや福祿壽の長歌
 形の月々や大黒天が借るを刺りてや團なまを福
 津の長歌をけいほりといふは解せぬ知り外を歌を
 けいほり種の外道といふは見前集に色々の流ありて
 けいほりかきりしる御をいふは持ちぬる善持を
 いふはかやとあり外をいふは正法を對する御道とある
 のに詩りて異形の歌はとて見たり外をいふは行ふ
 士用する勸發の首をけいほりといふはとて工大とて下り
 くある歌をげいほりといふはとてとて河んにせよ福祿
 の長歌を外法歌といふ通書の知りありし

雷大鼓を礎づ

雷神背う大鼓を礎づ

世を礎づる神の御座りて
神の御座りて神の御座りて
神の御座りて神の御座りて
神の御座りて神の御座りて

あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて

塗のまのまの娘

あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて

座歌の坊の心とて大なるが
座歌とは昔琵琶法師

あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて

あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて

あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて
あまの御尊の御座りて

こは補綴すべのうぬ安政を弱きと云ふはあつたすし
奴さきの行列 而て表は必表を盡し心の要を弱きと云ふは
大久の徳奴を鏡と持し 行列す殊に大伴の如く
ゆえに列多 行列を執し 練ひゆえ大伴繪の画題と云ふは

武蔵の坂本 慶火方より 三井寺の鐘を止し
心鏡の如し 因なり

大伴繪の重なること十箇にあらば
大伴繪の重なること十箇にあらば
大伴繪の重なること十箇にあらば

大伴繪の重なること十箇にあらば
大伴繪の重なること十箇にあらば
大伴繪の重なること十箇にあらば

(四)

男と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

(五)

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

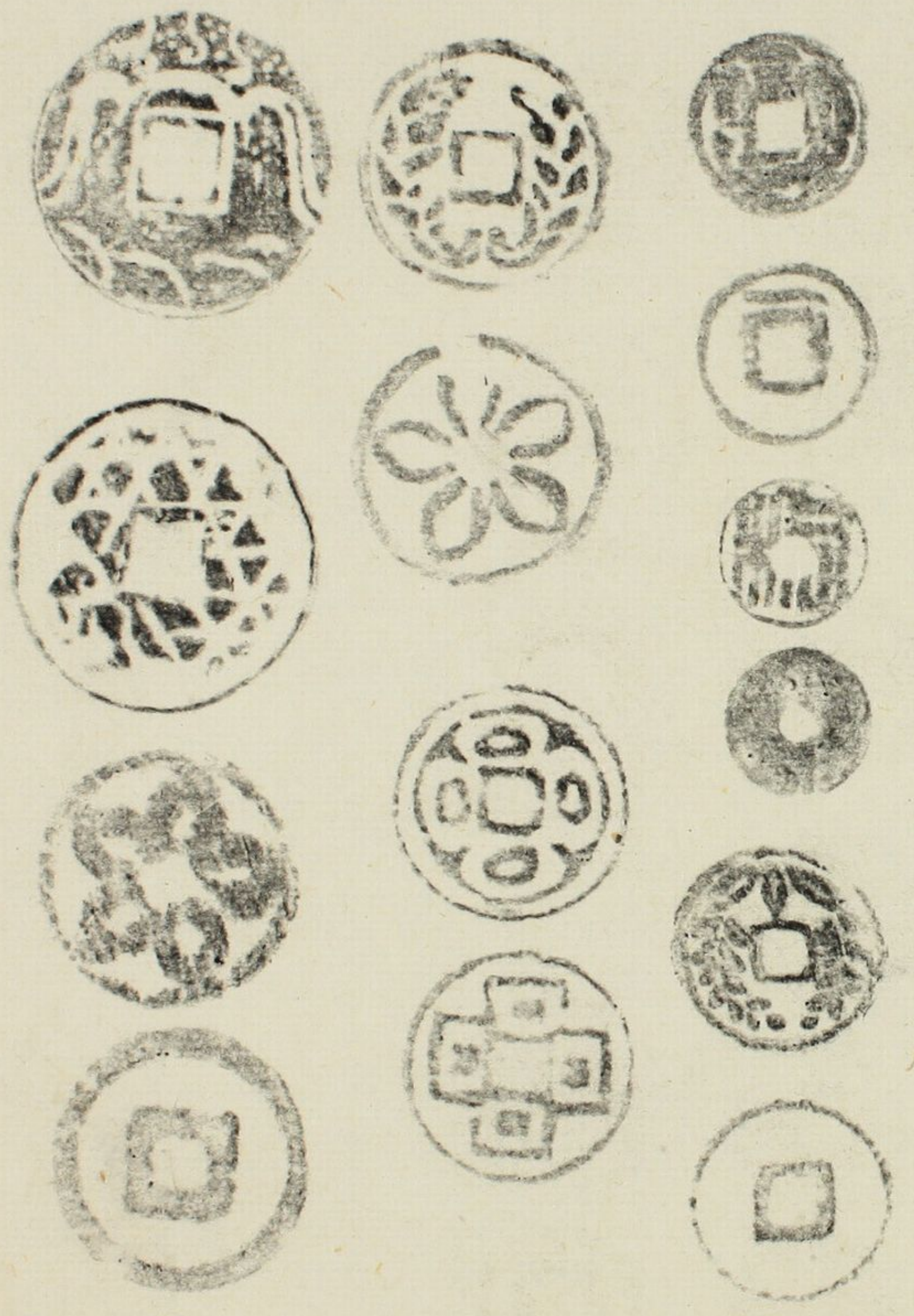
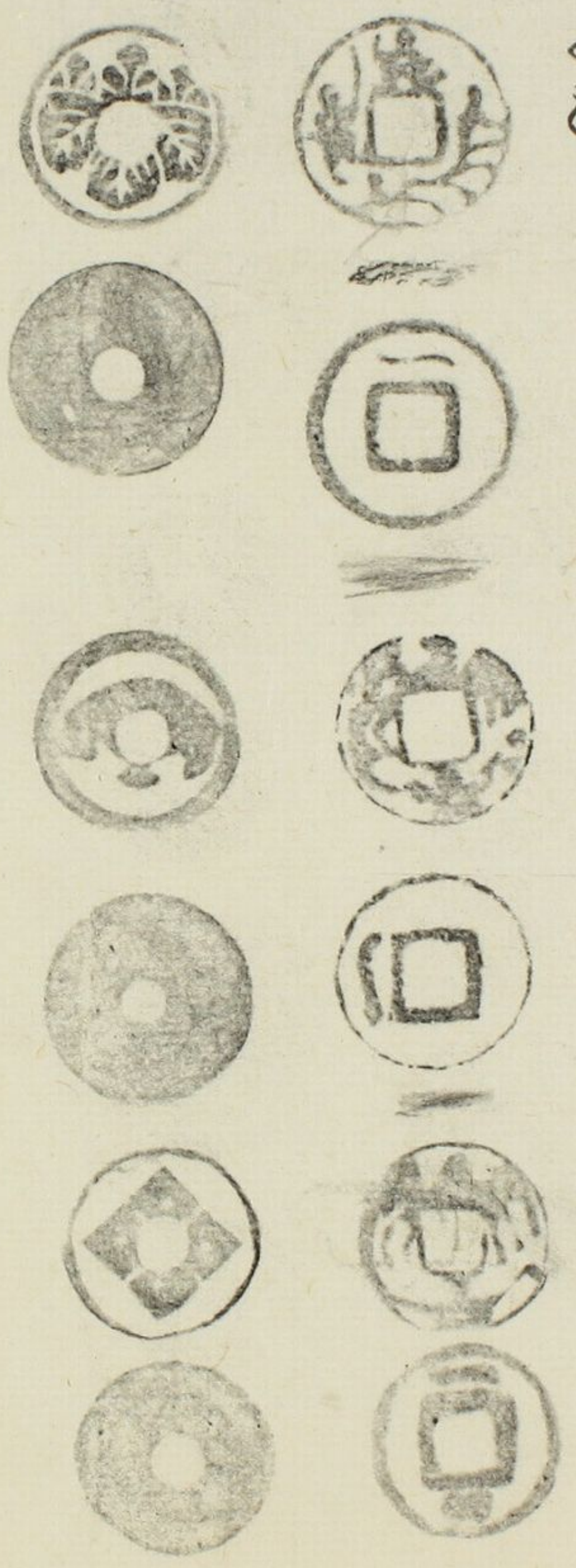
大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

大友の如く 女と寝よるか取らか何の如く男と寝よ

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、

一、此の元々の数々は、あるに、これ
 二、勝つて、元の也、あるに、これを取
 三、と、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 四、取、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 五、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 六、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 七、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 八、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 九、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の
 十、縁、あるに、これを取、又、必の考が、元の



此書ハ元来通用錢を以て記し後ハ
大徳の面をとりしを以て

移集命ハ今の子供の記しを以て
主として記し古巻に記し元
記し出来しを以て移集命に記し
記し古巻に記し元記し元記し
別記明の及はず古巻に記し元記し
しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男及若水注連繩解等ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

年男と云ふ者ハ其の記しを以て
年男と云ふ者ハ其の記しを以て

いよしつを人なるがまぢたけはなむ神事とのかへたなる
如と名けしこもなるし

西本日は志加の如

志加の如は近江唐崎の山如をともし濃志里の山十廿丁にあり
からさきの如は名しうかほらにて
のさゆらひあはれ又神樂歌は後草に
さちみまのまはしぬとみぬのよみ
をいかに後草のしこせの算しとせにせし

とある志加の如

千載集 月影はあめこしと見えながらともみよまはしつる唐崎
每朝親王松記に天智の末宇に教ふ所天守山と每興の事あり
て日吉の祭礼しかたの如に取行はれ唐崎の神事と別に違はず

如の邊に神樂の如はなむらひの供ひをとも奉る然るに如は
とまやに倒れしと大津城におはす新庄駿河守道敷天平
九年植られたるこまを記せんともいふ今の如はその後
如かこれしと見え

西本日は志加の如

西本日は志加の如は志加の如の如く黒如がちりて其如
燈の木に似たれは用とすとの如は黄如か赤如がちり
多し赤いして黄如なる本文の如は此のものせよなるし
冬冬平盛三巻記に西本日は志加の如は此の如に極立て朝夕
照ひけしが一巻の如に枯れにけしとす不思後の中の名も
とあり西本日は志加の如は此のものなるし

西本日は志加の如

畠本に高砂や尾上の地とあり高砂の尾上といふは高砂の
はからん正しく云ふ少し教へたる也なりと云ふは高砂の地を
いはあらぬ地なり尾上の地は高砂の地なりと云ふは高砂の地を
尾上にある大塚大明神住吉明神社記に播磨尾上は神功皇后
三菟成の事神の後住吉の事神と同村の鎮座也高
砂を流る砂東は也西は北は砂に流る人あふ多しあり
て砂の流来る福近く漁獵のたよりいふに世變り年
々種々いふ所の波も意淡と云ふ船の出入りいふに
又数年を居ての高砂といふ所家もいふに同砂なる
高砂尾上と相別ちて隔るべしなり
天正の頃羽柴秀吉三木城別所三木を攻めぬに三木
板を七刻輝元請ふ所を懸かすといふ早川隆景高

元春高砂將にて思嶽三万有餘兵永言高砂明石郡高砂の
浦に高砂の地と云ふは高砂の地なりと云ふは高砂の地を
尾上にある大塚大明神住吉明神社記に播磨尾上は神功皇后
三菟成の事神の後住吉の事神と同村の鎮座也高
砂を流る砂東は也西は北は砂に流る人あふ多しあり
て砂の流来る福近く漁獵のたよりいふに世變り年
々種々いふ所の波も意淡と云ふ船の出入りいふに
又数年を居ての高砂といふ所家もいふに同砂なる
高砂尾上と相別ちて隔るべしなり
天正の頃羽柴秀吉三木城別所三木を攻めぬに三木
板を七刻輝元請ふ所を懸かすといふ早川隆景高

あつちとつちあり 丹古松河志し 数十年前に
枯れて回林の女は

七本目には姫小娘

こは女松の若木を言ふのこゝに木集民部卿為家

春の野にわかさめはまのこゝにすまをいひか

八本目に「浪の娘

古歌に浪の娘を詠し「多ふあゝと」の場を定しは

無し河心の浪辺にも松林多くあゝをいふをいふ

九ツふは七植かち

如苗七植千は祝すをいふのみ

十でとよくの伊勢の娘

とよくのとは豊久野にて伊勢國河藝郡高尾野

村東豊久野にある錢撒かと言ふのなり妙妙の傳説
あり昔の野望遠の國流罪をいふ時その妻命姫のた
びと女半宿を思ひ出て一人の盲人を連れて大神宮詣
ると豊久野とよなれたらうかたはうの草刈男
に太郎宮との道程をいふに波舟の戯れをいふた
中への道をいふ音にうめられたるは十日通る豊
久野七通る長野三の度三三度と申して大神
宮とは二十日路やすと敷さしに命姫「大いに力をあさ
れとて」をいふ波舟が「女の日をいふ」行かぬがなうなうと
いふ「あはれか無いとて盲人の肩をいふ」賽錢を道の道乃
松枝を搦て還拜して立ち去られたり「妹をいふ見
たる草刈男」歎かむと出ぬ姫が松（かけ）錢を取ら

とせしに鐵はあぶしの宛となくつより火を吐き出す
さしあがりて出し鐵を盗むを強きしと云ふ
鐵林松と名付されしと云ふ本文に「松」云々
今「南」西鉄道せ一身田駅にて下車し伊勢別街道を西
方に往く一里半にして松林中にせいかげのまつとの
右標ありて香園と云ふのふり刻す

かけぢかかと松に一と聲り郭公

此松は芝草の松にて
松身中の難解は此支るなり鉄林松を此松と受し文句を
すれは芝草の意解し角ぬ多分句にか照し請い来しに
あしづきと思す此松は不老の松にては松樹千年
常盤に色の変らぬと不老とせしものか然し支るなり

鐵けけは「松」を「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神
宮邊松として道行大書鐵を結句と行はとの説もある
が此松は遠林松にあらざるのには「松」かとも思ふと遠林を
芝草とせば轉訛せしと思ふ

情有馬の松の枝に

情有馬は湯場を遊ばせし情ありと有馬
に松ししては「有」を「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神
の説はなびく相生の松また「つ」の約束にりて待つ
つ葉を待つ連理の松は「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神
相すの松の「ま」高砂の松の「ま」又連理の松は「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神
を約束し待つ松の「ま」高砂の松の「ま」又連理の松は「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神
の二松中遠林松を「あ」ぬかぬかぬの「ま」か「松」の「木」大神

信州長野 甲斐赤山梨路のいふふも七歳に抱せしむ
 伊豆の海にて三つ萬に抱せしむ
 能登風を即及か賀は龍母に抱せしむ
 夢のあまよりお子のあまのちちよ金おんはきい靴したるを
 井上田より父の日本周遊奇談
 三童謡に五月娘イリツとくしんがあら其年につらとほ
 全国一掃なちす巻物四三七つとくしん四國七山踏道に
 ては十三九つとくしん火攻府下には十三つとくしん若く然に
 余が中繩敷に傳ふ所を向くに十三と十七とあまの母は
 十三のせいで美とて女は十七歳を以て美とすの意
 ださうだめぬ十三と十七と分ちよし轉記したるものなるを
 思ふ

と中繩説と云はすやいふいふ重童謡と古琉球

出たりまは
 ツキの美しや十三日と女美しや十七日
 琉球古来の童謡に重山謡とての部の子守歌とて
 月の美しや十三日童謡美しや十七日
 ゑいよんが童謡のあまの十七歳とてく娘なる
 母の田よりおの娘のあまの十七歳とてく娘なる
 波心はけ十三の月を以て美とす
 いよあまを老る本邦十三日の月を以て美とす
 海は如昔余葉千載月雅の歌を以て美とす
 琉球人の十三日の月を以て美とす
 思はす十七の童謡のあまを以て美とす

見よ... 十三七の解... 書... こと...

日本... 田村... の後...

神... 教... 各... 歌... 出...

如... とい...

と... 考... 赤子... 縁... 出... 年... 娘... 娘...

二... 本... 日... 娘... 二十...

と... 通... は... 娘... は... 二十... 娘... 親... 見... 二十...

母... 娘... 二十... 娘...

本... 月... の... 娘... は... 二十... 娘... 二十...

心... 娘... 七... 娘... 二十... 娘...

は... 神... 娘... 二十... 娘... 二十...

云... 娘... 二十... 娘... 二十...

出... 二十... 娘... 二十... 娘...

名を存せり元禄五年の書物調方三合集覽に諸國名物
重寶記とも述に國名を追分針とあり又一月玉録
に大谷に針屋とあり此針の名物なり
ついでのかは有明堂文庫本に代歌集集の
歌庄より此の側針は名を生とあり然れど針屋と見ゆ
菅原よりばに算盤粒 前記の法本名物年を記にさす
の言の意は量とあり菅原の言が所記の名物なり
見ゆ下よりばに針よりばは標標が菅原の意にの標を用ひ
此の言は量とあり又寄持にて寄り道具の一事は捕
にゆふ人の先方の刃物を指す持りてこれを量り所記の
れが解し難し後の考と云ふも持りて量り算盤の
此の言を存せり元禄五年の書物調方三合集覽に諸國名物

友に出たり十露盤球の標珠一往なりと云

潮の清濁水はうき名所 潮は相坂の潮より又徳夫室の
夫安元年四月は始と云 始遠東 考云

相坂の潮は清濁の影と云 古今雜體 忠孝
潮が代にあつた山乃名清濁の木がくれたらと云

今ハヤ坂たのちより潮寺より潮の清濁のこれよりと云 相坂
の道清り清濁出てと云と云 此女はふんを云
がうき名所はよき名所の意なり
以上針屋は火津也との名物と云 火津繪瀨の甲は
なす語りて後の火津繪瀨の繪の女をいふ前の名は

